

平成19年度後期「学生による授業評価アンケート」集計結果概要について

滋賀県立大学では、学生の皆さんの協力のもとに平成16年度前期の授業から学生による授業評価アンケートを実施してきました。

平成19年度からはアンケート項目を一部変更して実施しましたが、このたび平成19年度後期のアンケート集計結果がまとまりましたので、その概要をお知らせします。

1. アンケート実施概要

(1) 目的

授業評価アンケートは、次の①～③を基本原則とし、本学の教育の質・教育効果を向上させることを目的として実施しました。

- ① カリキュラムの改善につなげる
- ② 授業改善につなげる
- ③ 透明性を高める

(2) 実施期間

平成20年1月15日(火)から平成20年2月18日(月)まで (※ 集中講義は別途)

(3) 実施科目

科目区分	開講科目	アンケート実施科目			
		科目数	受講登録者数	回答数	回答率(%)
環境科学部	106	88	5,151	3,213	62.4%
工学部	53	50	3,745	2,543	67.9%
人間文化学部	148	58	3,680	2,465	67.0%
人間看護学部	27	16	939	826	88.0%
国際教育センター	166	153	4,839	3,974	82.1%
人間学	13	10	1,841	986	53.6%
合計	513	375	20,195	14,007	69.4%

※ 工学部、国際教育センターについては、大学院科目(計3科目21人)を含む。

(4) 設問内容

設問1 この授業にどれだけ出席しましたか

- ①4回以上欠席 ②3回欠席 ③ 2回欠席 ④1回欠席 ⑤すべて出席

設問2 あなたは平均すると1週間にどれくらい勉強していますか

- ①0時間 ②0～5時間 ③5～10時間 ④10～15時間 ⑤15時間以上

設問3 この授業のための学習に毎週どれだけの時間を使っていますか

- ①0分 ②0～30分 ③30分～1時間 ④1～2時間 ⑤2時間以上

設問4 授業の内容は、興味のもてるものでしたか

- ①全くそう思わない ②あまりそう思わない ③普通 ④ややそう思う ⑤強くそう思う

設問5 授業の内容は、理解できましたか

- ①全くそう思わない ②あまりそう思わない ③普通 ④ややそう思う ⑤強くそう思う

- 設問6 授業で扱った内容をより深く学びたい気持ちになりましたか
①全くそう思わない ②あまりそう思わない ③普通 ④ややそう思う ⑤強くそう思う
- 設問7 この授業は、履修の手引きと内容が一致していましたか
①全くそう思わない ②あまりそう思わない ③普通 ④ややそう思う ⑤強くそう思う
- 設問8 教員の教え方は適切でしたか
①全くそう思わない ②あまりそう思わない ③普通 ④ややそう思う ⑤強くそう思う
- 設問9 教員の教え方で優れていたところはどこですか(複数回答可)
①学生とのコミュニケーション ②授業の組立 ③テキスト・資料等の教材
④板書・スクリーン等 ⑤話し方・声の大きさ 0:特にない
- 設問10 教員の教え方で工夫すべきところはどこですか(複数回答可)
①学生とのコミュニケーション ②授業の組立 ③テキスト・資料等の教材
④板書・スクリーン等 ⑤話し方・声の大きさ 0:特にない
- 設問11 この授業の満足度は、どの程度になりますか
①とても低い ②やや低い ③普通 ④やや高い ⑤とても高い
- 設問12 (選択科目の場合のみ)この授業を履修した動機は何ですか(複数回答可)
①単位が取れそうだから ②友人が取ったから ③時間割の都合
④専門性向上・資格取得のため ⑤興味・関心があったから 0:その他
- 設問13 (語学・情報系科目のみ)この授業を通じてどの程度の力が身につくと思いますか
①全く身につかない ②あまり身につかない ③どちらともいえない
④ある程度身につく ⑤とても身につく

2. アンケートの集計結果

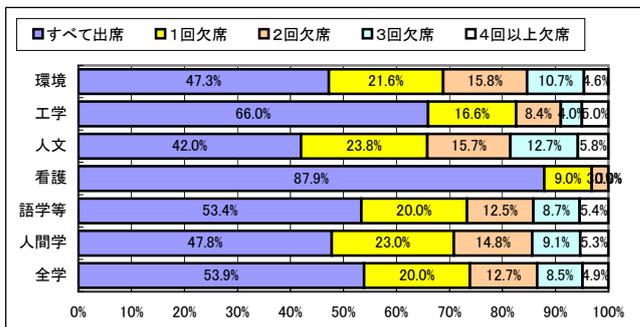
(1) 平均ポイント (科目区分別)

アンケート項目	環境	工	人文	人看	語学等	人間学	全学
Q1.授業への出席	4.0	4.3	3.8	4.8	4.1	4.0	4.1
Q2.1週間の平均学習時間	2.4	2.3	2.2	2.8	2.3	2.2	2.3
Q3.この授業に対する学習時間	2.1	2.1	1.6	2.2	2.0	1.5	1.9
Q4.授業の内容への興味	3.7	3.4	3.7	3.8	3.6	3.5	3.6
Q5.授業の内容の理解	3.4	3.1	3.4	3.5	3.5	3.3	3.4
Q6.より深く学びたくなったか	3.5	3.3	3.6	3.7	3.4	3.4	3.5
Q7.履修の手引きとの一致度	3.6	3.4	3.6	3.6	3.6	3.4	3.5
Q8.教員の教え方は適切か	3.6	3.3	3.7	3.6	3.7	3.5	3.6
Q9.教え方で優れていた点	—	—	—	—	—	—	—
Q10.教え方で工夫すべき点	—	—	—	—	—	—	—
Q11.授業の満足度	3.5	3.3	3.6	3.6	3.6	3.4	3.5
Q12.履修の動機(選択科目の場合)	—	—	—	—	—	—	—
Q13.どの程度身についたか	—	—	—	—	3.7	—	—

※ Q9、Q10およびQ12については、ポイント評価でないため平均ポイントは示していません。

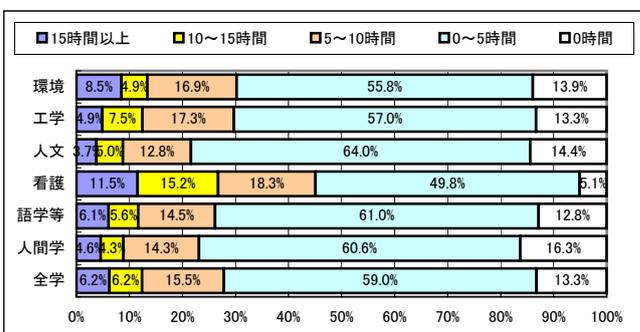
(2) 項目別結果 — 科目区分別 — (単位:%)

設問1 この授業にどれだけ出席しましたか



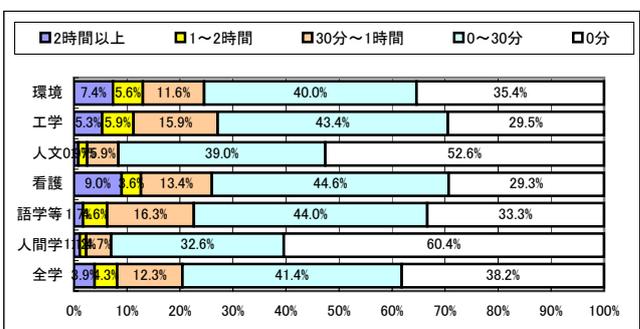
全学の約70%強が無欠席または1回のみの欠席という結果となりました。アンケート回収率は前期とほぼ同じでしたが(前期69.9%、後期69.4%)、前期と比べると出席率はやや悪くなりました。

設問2 あなたは平均すると1週間にどれぐらい勉強していますか



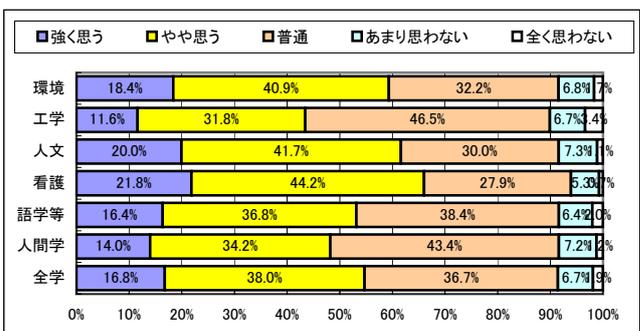
前期と比較し、全学的に学習時間が少なくなっています。特に、人間看護学部が学習時間が少なくなりました(ただし、少なくなったと言っても区分別では最も多くなっています)。

設問3 この授業のための学習に毎週どれだけの時間を使っていますか



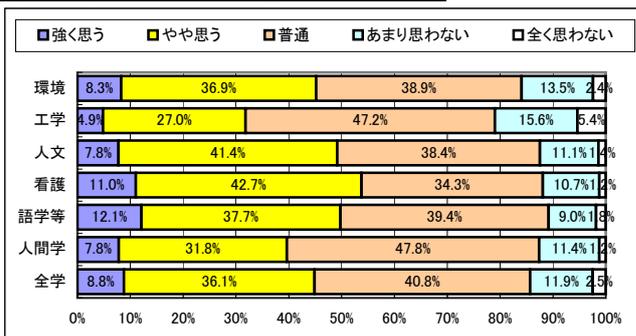
全学で見ると、授業に対する学習がまったく行われていないものが約40%あり、これは前期とほぼ同じ結果となりました。前期と比較すると、全体的に学習時間は少なくなっています。

設問4 授業の内容は、興味のもてるものでしたか



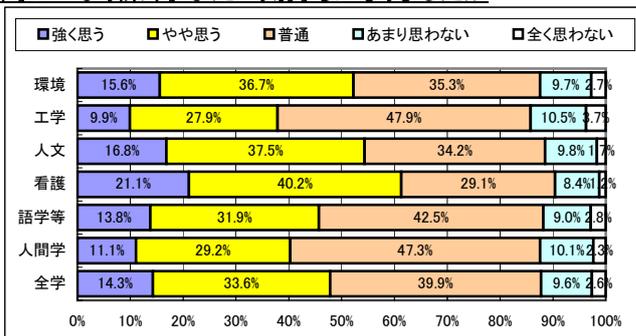
概ね50%の学生から積極的な興味を示されており、否定的な意見は約10%程度でした。

設問5 授業の内容は、理解できましたか



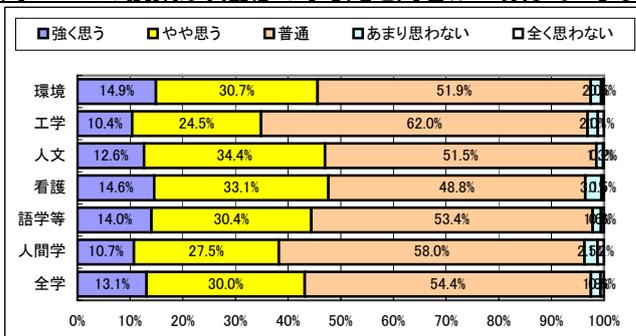
全学的には40%強の学生から理解に対して肯定的な評価がありました。否定的な回答は約15%と少なかったのですが、設問4(興味)の項目と比べるとやや多くなっています。

設問6 より深く学びたい気持ちになりましたか



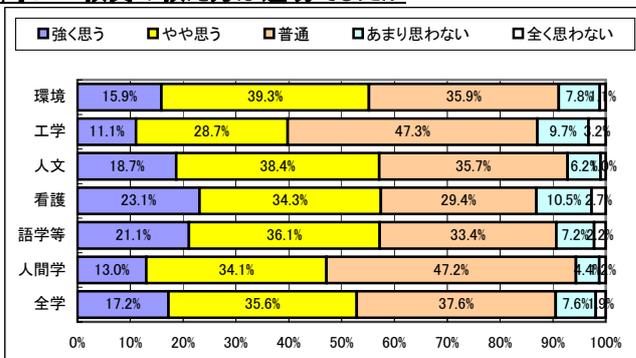
全学で見るとほぼ半数がより深く学びたいという肯定的な回答をしています。前期と比較しても、ほぼ同様の状況でした。

設問7 この授業は、履修の手引きと内容が一致していましたか



科目区分間でのバラツキが比較的小さく、約40~50%が肯定的な回答をしています。「あまり思わない」「全く思わない」という否定的な回答は、他の質問に比べて前期と同様に非常に少なくなっています。

設問8 教員の教え方は適切でしたか



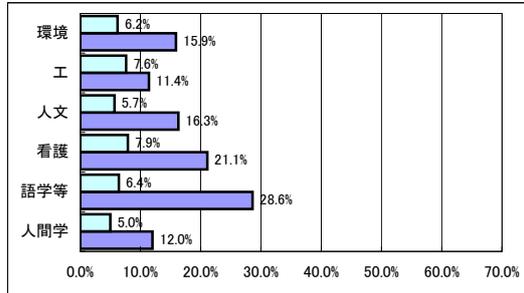
前期とほぼ同様の状況で、肯定的な回答が約50%となりました。ただ、工学部の落ち込みがやや気になります。

設問9 教員の教え方で優れていたところはどこですか(複数回答可)

設問10 教員の教え方で工夫すべきところはどこですか(複数回答可)

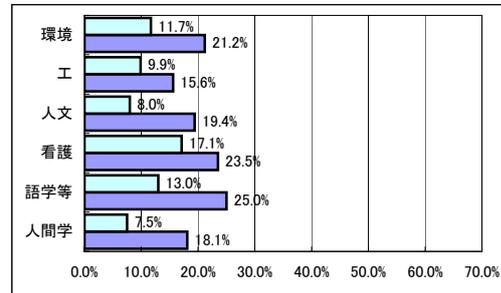
① 話し方・声の大きさ

□工夫すべき
■優れていた



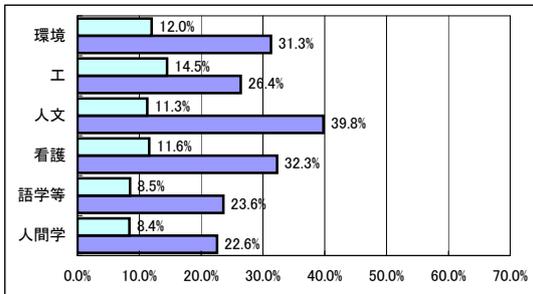
② 板書・スクリーン等

□工夫すべき
■優れていた



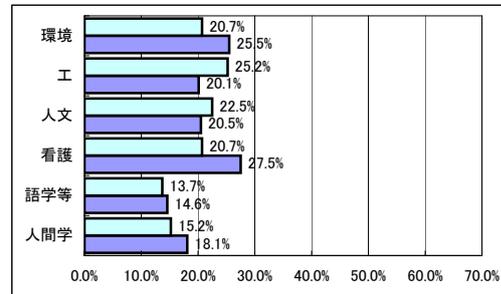
③ テキスト・資料等の教材

□工夫すべき
■優れていた



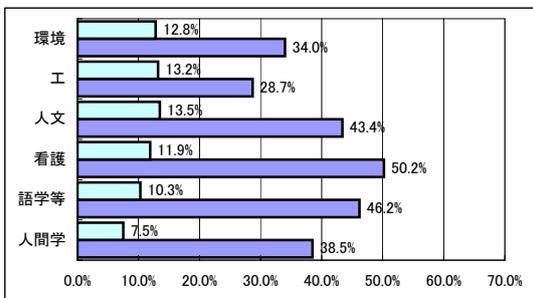
④ 授業の組み立て

□工夫すべき
■優れていた



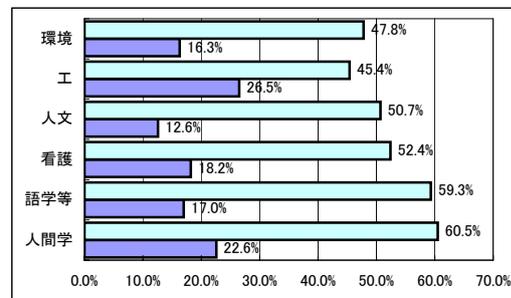
⑤ 学生とのコミュニケーション

□工夫すべき
■優れていた



⑥ 特にない

□工夫すべき
■優れていた

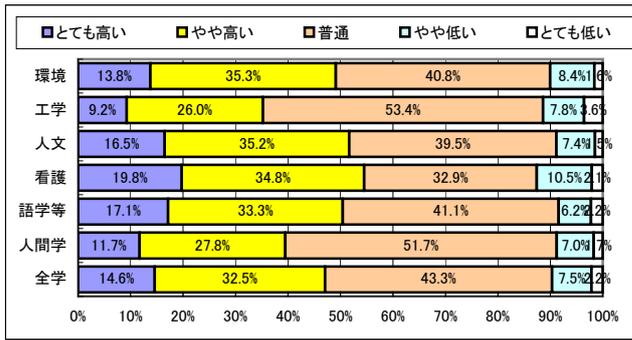


「話し方・声の大きさ」「板書・スクリーン等」「テキスト・資料等の教材」「学生とのコミュニケーション」は、すべて「優れていた」とする回答が多くなっています。特に、「板書・スクリーン等」は、前期では「工夫すべき」が「優れていた」よりも多い区分もありましたが、後期ではすべての科目区分で「優れていた」が大きく伸びています。また、「学生とのコミュニケーション」の「優れていた」という回答が前期と比べ大きく伸びています。このように、授業評価アンケートの結果から、授業改善が行われたことが徐々に数字として表れてきています。

しかしながら、一方では「授業の組み立て」について「工夫すべき」とする回答が「優れていた」を上回っている科目区分もあり、今後の改善が必要なことが明らかになりました。

工夫すべき点に関する設問で「特にない」とするものが前期でも40～50%と多かったのですが、後期はさらに増えており、授業に対する要望・不満は全般的に少なくなっていることがわかります。大学においても平成19年度から授業改善のための様々な取り組みを行っていますが、平成20年度もこの取り組みをさらに進めていきたいと思っています。

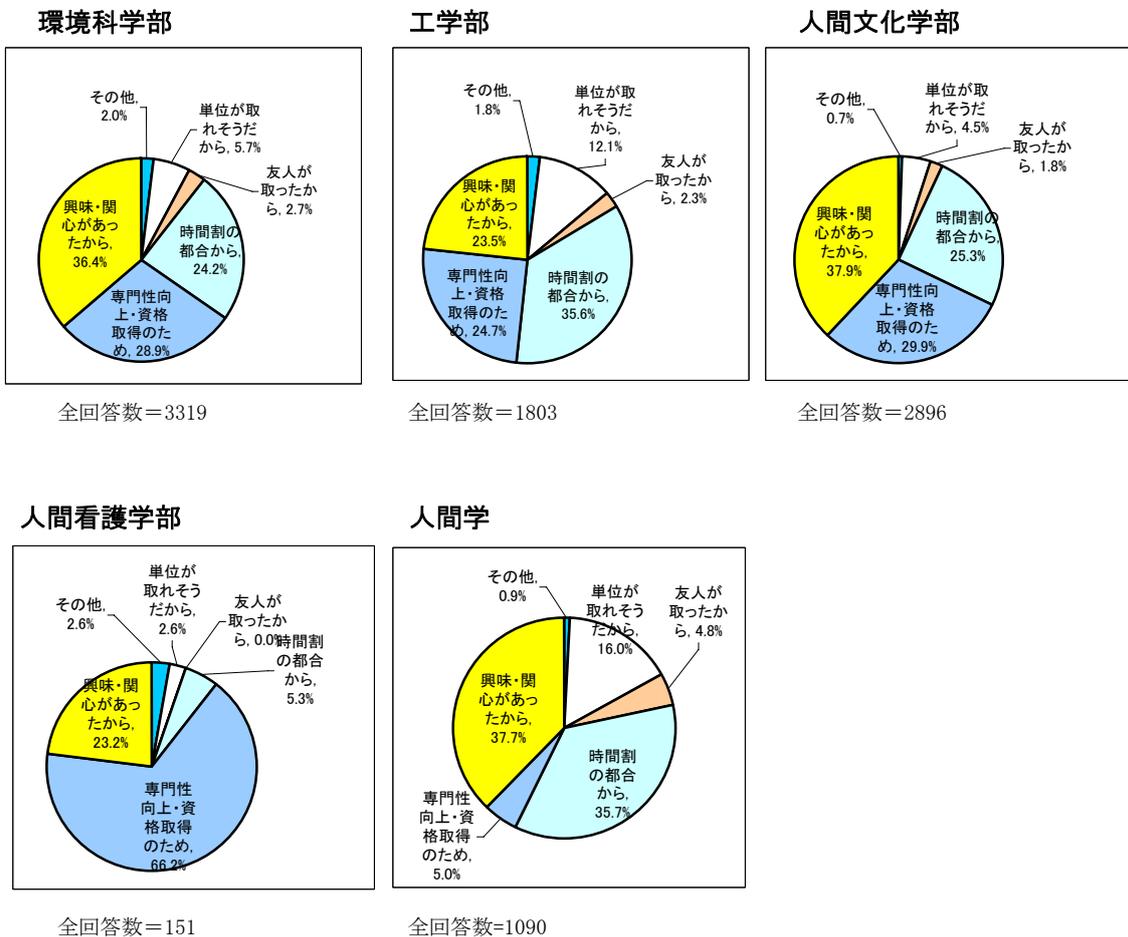
設問11 この授業の満足度は、どの程度になりますか



前期とほぼ同様の状況で、肯定的な回答が概ね40%から50%となっています。

設問12 (選択科目の場合のみ)この授業を履修した動機は何ですか(複数回答可) (単位:%)

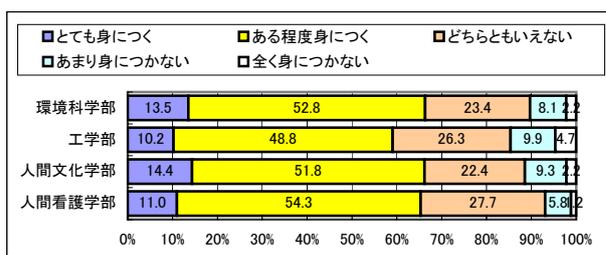
※ 全回答数の合計を100として当該選択肢が占める割合を計算



「単位を取れそう」「友人が取ったから」という消極的選択理由はどの科目区分でも比較的少なく、「興味・関心があったから」「専門性向上・資格取得のため」の回答割合が高くなっています。

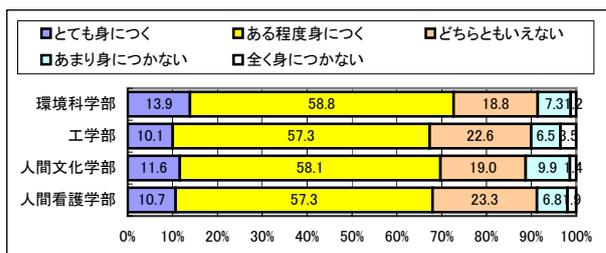
設問13 (語学・情報系科目のみ)この授業を通じてどの程度の力が身につくと思いますか

① 英語

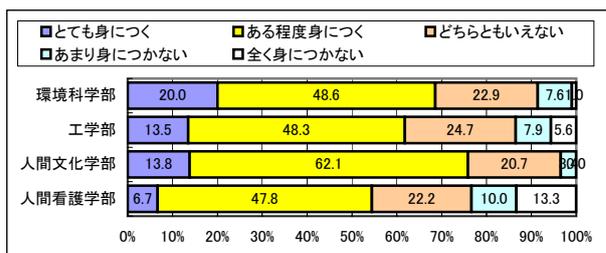


英語および第二外国語とも、ほぼ同じ結果となり、約60～70%から肯定的な評価を得ることができました。

② 第2外国語



③ 情報処理



各学部により、違いが生じており、環境科学部および人間文化学部での評価が高く、人間看護学部での評価が低くなっています。

3. まとめ

学生のみさんの協力を得て前期・後期とも授業評価アンケートを実施した結果、次のような傾向があることが確認できましたので、次のとおりまとめとすることとします。

- ① アンケート結果からは、授業科目の約3分の2には学生の欠席はほとんどないなど、授業への学生の出席率は全般的に高いこと。ただし、欠席不可(履修放棄)も一定割合存在すること。
- ② 学生の授業への出席は、前期が高く後期が低いこと。特に、人間文化学部、国際教育センター、人間学の科目でその傾向が顕著なこと。
- ③ 新規開講した「人間探求学」に対する学生の評価は、他の人間学科目に比べ非常に高いこと。一方、今年度から必修化した「環境マネジメント総論」については、評価が低いこと。
- ④ アンケート結果からは、授業のための学習時間が多くなればなるほど授業科目の理解や興味も高まること。
- ⑤ 学生の学習時間からみれば、単位の実質化がまだまだ十分には実現できていないこと。
- ⑥ 1週間の学習時間は、学年別では1回生が最も少なかったことから、大学入学後の安心感、大学の学習スタイルへの移行が十分ではないことが推測できること。

学生のみさんも、今回お知らせするこの結果を今後の学習を進める上での参考にしてほしいと思います。